



かみぎょう

11/15

市民しんぶん上京区版

新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、掲載している内容は変更になる場合があります。

上京区ホームページ 上京区役所 検索

上京区は、
大学生年代(20-24歳)が
約10人に1人という、
市内で最も
比率の高い
「若者のまち」
でもあります!



次期上京区基本計画を策定中! 上京の未来に届け 大学生・若者たちの声!

新型コロナの影響で、対面の授業が行われないこともあり自粛を余儀なくされていた大学生が、授業の再開により、少しずつ上京のまちに戻ってきています。
コロナ禍を通じて感じた思いや、これから挑戦していきたいこと等、大学生の思いを伺うため、同志社大学ボランティア支援室(ARCO)のメンバーと林区長以下上京区役所職員が、オンラインでワークショップを実施しました。ワークショップの結果を次期上京区基本計画に反映するとともに、引き続き、未来を担う大学生・若者たちの意見も大いに取り入れていきます。



学生の皆様の活力が、
未来の上京を
創っていきます。

京都市長
門川 大作



学生とのワークショップの様子

同志社大学ボランティア支援室(ARCO)とは

「地域と共に」をスローガンに、同志社大学の学生のボランティア活動の活性化を目的として、ボランティア紹介やイベントの企画運営・情報発信等を行っている学生スタッフです(37名在籍(令和2年10月時点))。
これまで、上京区民ふれあいまつりや上京区まちづくり円卓会議への参加、エール交換レター&ノート※の実施など、様々な上京のまちづくりに参加してくれています。



寒梅館夏まつりの様子



こんなご意見がありました

コロナ禍で感じたこと

- コロナ禍において、大学生の立場でもできることを考える必要があると感じた
- これまでの何気ないことが幸せだったのだと感じた
- 日常が壊れてしまった
- 人とのつながりの大切さを改めて感じた

上京の一番好きなおとこ

- 幅広い年代の人々が活躍されている
- 御苑を通学路にできる
- まちなみが美しく、散歩が楽しい
- 住民の皆さんがまちを自ら良くしようと行動されているのが感じられる

上京区がこんなまちになってほしい

- 歴史、文化、地域のコミュニティが大切にされていて、その魅力で人をたくさん呼べるまちに
- 文化と共存し続けられるまち
- 大学生と地域がつながり、支え合うまち
- 多様な人々が共存するまち

将来の夢

- 自分の中に「芯」を持った生き方をする
- 小説家になる
- 高校の国語教師
- 縁側のある平屋に住む

(※) エール交換レター&ノートとは

新型コロナの影響で、自宅で過ごす時間が長く、人との直接の交流も取りにくい状況が続いています。
そんな中、6月から中立学区と待賢学区の高齢者と同志社大学の学生との間で文通や交換日記が行われています。

地域の方が
どんな方なのか
想像しながら書くのが
楽しいです!
お返事をまだかまだかと
ワクワクしながら
待っています!



☎=地域力推進室(企画担当) ☎441-5029

風邪のような症状があるときは、**かかりつけ医など、お近くの医療機関に、まず、電話で相談してください。**
新型コロナウイルス感染症やインフルエンザが疑われるときは、医師の判断により、検査を実施します。

※休日・夜間などでお医者さんに相談できないときは、新型コロナ医療相談センター(☎414-5487)へ